

ふるさとに『命の道』と『地方創生の道』を 令和8年度四国西南地域道路整備促進協議会総会

5月22日(金)、役場本庁で国土交通省をはじめ関係機関の皆さまをお迎えし、「四国西南地域道路整備促進協議会」令和8年度総会が開催されました。

同協議会は、愛媛・高知両県の10市町村の首長や議長、商工会関係者で構成され、『四国8の字ネットワーク』の早期整備完了に向け、両県を越え団結した活動を進めています。

総会では、会長の中村維伯町長が、四国西南地域の道路整備の現状について報告しました。津島道路や宿毛内海道路をはじめ、窪川から佐賀、大方、四万十間の各路線でも、着実に事業が進められていることが説明されました。

“

まさのり
同協議会会長・中村維伯町長

南海トラフ地震の発生確率が引き上げられ、切迫性が高まっている現状に触れ、「**本地域は地理的条件から交通アクセスが限られており、幹線道路が寸断されれば、地域の孤立という深刻な事態を招きかねません。道路はまさに『命の道』であり、防災・減災の観点から整備は喫緊の課題です**」と強調しました。

さらに、人口減少や少子高齢化への対応、地域の活力維持・向上の必要性にも言及。「**豊かな自然や地域資源を生かした観光や産業の振興、交流人口の拡大に向けても、道路整備は『地方創生の道』として欠かせません**」と述べ、関係機関への道路整備促進に向けた取り組みを引き続き進めていく方針を示しました。



総会開催にあたり挨拶を述べる
同協議会会長・中村維伯町長



愛媛
CATV
動画

四国8の字ネットワーク

01 大規模災害時における交通機能の確保

02 広域交流や地域間連携の加速化

03 特産物の高鮮度出荷マーケットを大幅に拡大



■高速道路の整備により、陸の孤島の解消を！
南海トラフ地震発生時には、津波浸水等により、
幹線道路(国道56号)が寸断され、陸の孤島が発生する恐れ！



宿毛内海道路

